レッスン:PYR　N0.47

テーマ：永遠のアトムに関するさらなる分析

PYR KE06 10/06051

私の兄弟・姉妹たちよ、

スピリット、光、そして火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、主の聖性の中に抱かれています。

 前回のレッスンではある程度まで永遠のアトムと**その**Lifeとの関係、そして現在のパーソナリティーとの関係について見ていきました。過去において永遠のアトムは、それがサイコノエティカル体ではなくてもある程度まではそうであると述べました。そしてまた、それが潜在的意識的マインドであるか否かという問いについては、それはイエスでありノーです。ですから両方の点で、それがサイコノエティカル体であるかまたは潜在意識的マインドであるか否かについては、答えはイエスでありノーです。

　前回のレッスンで、永遠のアトムは乗り物であり、現在のパーソナリティーを転生させると述べました。しかし、そこにはまたLifeそれ自他のスパークを“見いだす”でしょう；そして同時に自己実現に到達したときに現在のパーソナリティーが使う体はいわゆる高次ノエティカル体の波動の体であると言いました。それは高次ノエティカル体であり、スーパーサブスタンスの波動です。それは自己実現した現在のパーソナリティーが地球の重力圏外において助けを与える時に使う体です。なぜなら、過去のレッスンで述べたように、全ての天体はスーパーサブスタンスの海のなかを泳いでいるからです；そして他の惑星または他の太陽系、銀河系などを訪れる時に使用するのはこの体だけだからです。

　この永遠のアトムには形、フォームがあるでしょうか？それはどんなでしょうか？答えは、それはまったく重要ではないということです。

　それでは永遠のアトムとサイコノエティカル体との関係は、それが実在するという原因であるという以外に何でしょうか？

なぜならば、**永遠のアトムなくしてサイコノエティカル体は実在しないからです**。なぜならそれが実在する理由がなくなるからです。

　それでは永遠のアトムはLifeそれ自体とは別に、サイキカル体に何を提供するのでしょうか？それは各現在のパーソナリティーが経てきた過去の全ての体験を与えます。それによって新たな現在のパーソナリティーがその潜在意識のマインドの中に貯蔵されている、その特定の“永遠のパーソナリティー”に属する全てを現すことができるようにです。

　各現在のパーソナリティーの活動、動きは**永遠のパーソナリティーに属する潜在意識のマインドに**貯蔵されています；

**そして何であれ永遠のパーソナリティーに属するものは永遠のアトムのなかに見いだすことができます。**

ですから、気づきのレベルとして現在のパーソナリティーが何を現すかは決めるのは永遠アトムです；

**そしてまたその現在のパーソナリティーの周囲の他の全ての存在との経験（つまり両親、家族、友人、社会、そして国その他）において現在のパーソナリティーがどのような経験を経るかを指図するのもまた永遠のアトムです。**

**つまり、永遠のアトムはそのパーソナリティーがある特定の環境、特定の家族、社会その他において何を現わす、与え、受け取るかを指図します。**

　また過去において、進化成長のプロセスの中で、実在のこの波動の中だけでなく実在の他の波動の中でも探求者は体験を受け取ると述べました。そして時には、他の波動の中で現在のパーソナリティーが体験を受け取るのを助ける存在が、時には完全に再形成された体を提供することもある、と述べました；それは現在のパーソナリティーがその現れのステートにいる間に意識的に体験を与えそして体験を受け取ることができるように体を提供します。しかし､実際ほとんどの場合､実存のそれらの波動のなかで助けを与えるためです。

Page2

　さて、成長のプロセスのなかにおいて、そのサイコノエティカル体は完全にはまだ再形成されていない、と言いました。現在のパーソナリティーが例え一時的であっても気づきの高いレベルを現すことができるように、誰かが体を再形成することを許されているのでしょうか？答えは明らかにノーです。なぜなら、そのサイコノエティカル体はその現在のパーソナリティーだけのワーク、努力によってのみ再形成されるべきだからです…その特定の現在のパーソナリティーがLifeからどれだけ多くを現しているかです。

　ですから、“その人が一時的体験を得て、また同時に他の同胞の人間達に助けを与えるために使われるように、私たちが探求者の体を再形成する”と言う時、実際には何が起きているのでしょうか？再形成される体はすでにそこにあり、それは現在のパーソナリティーが自己実現に到達した時に使用する体です。そして勿論、永遠のアトムは全体として自動的にその体となります。しかし、そのフォーム、形を提供するのは永遠のアトムではありません；

その体は永遠のアトムの中にあるのです。

　あるエクササイズの中で、四面ピラミッドの中に立って正面の純白のサイドに面している時、2つの同一の体を見ると言いました。それらは天人の体と完全に同形です。正面に向かって右側の体は現在のパーソナリティーを活性化するLifeのスパークの体であり、実際それは私たちの内側にいる神です。そしてもう一つは現在のパーソナリティーが自己実現に到達した時に使用する体です。

　ですから、永遠のアトムのなかには2つの同形の体があります。そしてLifeのスパークは永遠のアトムの中にあるので、LifeはそのLifeの体、つまりスーパーサブスタンスの波動の体を使用する権利があります。それは高次ノエティカル体であり、現在のパーソナリティーに提供される体です。

　今、現在のパーソナリティーと言う時、サイコノエティカル体はそこに留まって肉体を“活性化”するということを理解する必要があります。

しかし、もう一つの体はいわゆるシルバーコードと呼ばれるものによって体外離脱においてはサイコノエティカル体とつながっています。

そして意識の一部分（それはLifeの意識ではない）、それは新しい記憶とつながって、現在のパーソナリティーがそのステートの間に体験することを感じることができるようにし、その記憶がそこにあります；

そしてその体が再び引き戻されると、現在のパーソナリティーは全ての体験を詳細に覚えているのです。それはあたかもそれらの実在の波動の中で機敏に目覚めているかのように。

　ですから、実質的体験を受け取り、他の同胞の人間達に助けを与えるために使用される体は高次ノエティカル体です；

その高次ノエティカル体は永遠のアトムと一つになります。ですから永遠のアトムは高次ノエティカル体と同じ形を持つのです。

　過去のレッスンで進化成長の過程にあるいかなる現在のパーソナリティーも、過去に現在のパーソナリティーとして存在したと主張することはできない、と述べました。現在のパーソナリティーがそのように主張することのできる唯一の時、それは自己実現した時です。

　なぜでしょうか？その時にはサイコノエティカル体は形、フォームとして永遠のアトムの形と一つになるからです。言い換えれば、その時には現在のパーソナリティーは永遠のアトムなのです。そうです、その時には“私は前にも存在していた、なぜならこれまでの全ての過去生において転生してきたのは私だから”と言うことができるのです。

　ですから、その時始めて自己実現した現在のパーソナリティーは、転生のサイクルにあっても、この実在の波動において現在のパーソナリティーとして実在していても、様々な過去のパーソナリティーを生きたと主張することができるのです。

なぜなら、その時には完全に再形成された現在のパーソナリティーは永遠のアトムと一つになっているからです。そして永遠のアトムのなかには同時に高次ノエティカル体があるのです。

しかし勿論、高次ノエティカル体はそれらの場合以外には、つまり地球の重力の外で同胞の人間達に助けを与える以外には、別の体としてそれを使用することはできません。

　ですからこれが永遠のアトムです。将来はもう少しこれについて見ていきますが、今はこれで十分です。

Page3

Q : 永遠のアトムは私たちの人生において多くのプログラミングをしているようですが、大天使のウリエルはコーディネーターとして何をしているのでしょうか？

K：永遠のアトムは各現在のパーソナリティーを転生させる乗り物です。乗り物という時、それはスパークをもたらします。しかし同時に、

体験としての全ての記録はこの永遠のアトムに貯蔵されます。

同時に永遠のアトムの中には個人の潜在意識のマインドの他に汎宇宙的潜在意識のマインドもあります。

しかし覚えているかもしれませんが、物質の原子のなかにさえ原子それ自体の潜在意識のマインドを“見いだす”であろうと言いました；原子と言う時、その原子が“属する”現在のパーソナリティーを意味します。

そして同時にそこには、物質の原子のなかには汎宇宙的潜在意識のマインドも見いだされます。

　さて、過去に述べましたが、地面から小石を拾い上げても、その小石にも歴史があります。その歴史はどこに貯蔵されているでしょうか？その小石としての状態の全ての原子のなかに貯蔵されています。

さて、その石に関する歴史を見ようとする努力、それはサイコメトリーと呼ばれます（ギリシャ語ではサイコメトリア）。そしてそれは同調を通じて行われます。

なぜなら同調を通じてそれを調べることができるからです。その石がどこから来たか、その石の周囲で何が起きたか、そしてその石の源さえも見いだすことができます。

　さて、現在のパーソナリティーの潜在意識のマインドの詳細は永遠のアトムの中に見いだされます。

それゆえに永遠のアトムが潜在意識のマインドかどうかを質問されると、答えはイエスでもありノーでもあるのです。その結果、

確かにそれはこの新しい現在のパーソナリティーとつながっている他の全てのパーソナリティーとの関係において、その新しいパーソナリティーが何を受け取り、与えるかを決めるにはこの永遠のアトムです。

確かに、どの現在のパーソナリティーが転生する必要があるかを決めるその決断は、永遠のアトムから来ます。

　こう言う時、他の法則はどうでしょうか、原因結果の法則、それらの法則はどこにあるのでしょうか？以前、創造界の全ての法則はLifeの中、Lifeの微細なスパークのなかにさえあると述べました。そしてこのLifeの微細なスパークは私たちの内側にあり、それらの法則もまた永遠のアトムのなかにあるのです、なぜならLifeのスパークがそこにあるからです。

　原因結果の法則と言う時、それは私たちから離れたところ、外側にあると考えるべきではありません；全ての法則は私たちの内側にあります。この分析は永遠のアトムに関してイエスであるノーである理由がわかることでしょう。

Q：パーソナリティーがまだ完全には再形成されていない時、永遠のアトムについてどう考えますか？

K：それは乗り物であり、その中にはLifeのスパークがあり、またその体を自己実現した現在のパーソナリティーが使います。天人の体と同一のその体の役割は何でしょうか？それはLifeのスパークのある体であり、それは現在のパーソナリティーがもっともっとLifeそれ自体を現すように引き寄せます。実際、Lifeのスパークは影を作りだす方に働く二元性の部分に根ざしています。なぜなら、影を作り出すのは二元性のその部分と共にあるからです。

　実際何が起きるかと言うと、その部分によって表現されるLifeの部分、それはその部分とスパークの間の距離を象徴します。ですからその乗り物はサイコノエティカル体ではなくて現在のパーソナリティーが自己実現した時だけです。サイコノエティカル体は同一かどうか、それは一つになり、答えはイエスです；しかしそのステートでさえ、それはそうであり、そうではないのです；しかしそれは同一であり、それは一つになります。しかしそれは実際にはサイコノエティカル体ではありません。しかし、現在のパーソナリティーはそのポイントに到達した時には、自分は確かに前に存在していた、と主張することができます。そして繰り返しますが、永遠のアトムの中には高次ノエティカル体があります。

　現在のパーソナリティーが実存の諸世界と存在の諸世界を分けている境界を越える時がきた時に何が起きるでしょうか？私たちは永遠のアトムが必要でしょうか、サイコノエティカル体が必要でしょうか？答えはノーです。前にも述べましたが、それが生じる以前でもサイコノエティカル体はもはや必要ないと述べました。なぜなら、惑星が全体として他の同胞の人間達を助け始めるからです。しかし、それは実在の物質的ステートと共にあっても存在することでしょう。

Page4

 それでは何が起きているのでしょうか？サイコノエティカル体はもはや使われないのです。永遠のアトムはもはや必要ないのです。なぜなら、それは他の現在のパーソナリティー達を転生させることがないからです。ですから何が起きているのでしょうか？現在のパーソナリティーはもはや現在のパーソナリティーではなく高次ノエティカル体を使用する自己実現した人間だからです。

　Lifeのスパークについてはどうでしょうか？現れとして私たちはLifeのスパークになるのでしょうか？いいですか、此について前に話したことはありません。此について話すのは初めてです。私たちはLifeのスパークとなるのでしょうか？ここには前とは違ったことがあります。その違いとは自己実現した人間は今や自己実現したモナドから提供された体を使い、Lifeのスパークは高次ノエティカル体の中にあります；そして境界を越え、スパークとして自己実現を提供する時が来た時にはじめてそれ全てが一つになるでしょう。それは全ての過去の転生を活性化したのですが、高次ノエティカル体としてのステートも活性化します；なぜなら、スパークの役割は高次ノエティカル体を活性化するというそこにあるからです。

　そして自己実現した人間には何が起きるでしょうか？自己実現した時には永遠のパーソナリティーの役割は終わると思いますか？答えはノーです。ですから、永遠のパーソナリティーは今や**魂のセルフエピグノシス**に自己実現を与えるのです。

Q：地球上の全ての人間が自己実現に到達した時には、人間は皆スピリットと同じになるのですか？なぜなら肉体にいる必要がなくなるからです。

K：自己実現したすべての人間は高次ノエティカル体を使い、また何であれ潜在的可能性の大きなサイクルにおいてLifeから現在のパーソナリティーに与えているものを提供します。しかし、それもまたLifeそれ自体のスパークではありません。それはLifeですが、完全な“魂のセルフエピグノシス”ではありません。

Q：魂のセルフエピグノシス”になるには何が必要なのですか？

K：実際、何も必要ありませんが、しかし現れのステートにいる間に果たすべき役割があります。それは他の惑星、他の太陽系、他の銀河などにいる他の同胞の人間達を助けることです。全ての自己実現した人間にはLifeのほとんどの能力があります；私は“ほとんど”と言いますが、“全部”とはいいません；それゆえに彼等は一つにはならないのです。なぜなら、行うべき役割があり、彼等は再び人間に近づいていきます；彼等には諸体を築く能力があり、物質化と非物質化を行うことができ、人間の身体を再び物質化して自分自身を再び現すことができます。しかし、彼等は決して単なる現象のために現象をクリエイト（創造）することはありません。

　自己実現した人間達は、その後も実存の諸世界に留まり、同調を使います。違いは、スパークには同化を通じてコミュニケーションをすることができますが、高次ノエティカル体は同調を通じてコミュニケーションをします。

Ｑ：特定の惑星において自己実現した人間が次のレベルへと進むのを何が“決める”のでしょうか？

Ｋ：レッスンですでに述べましたが、一度ラインを超えたら戻ることはないと言いましたね。実存の諸世界を後にして存在の諸世界に入ったら、もはや戻ることはできません。どのようにして他の同胞の人間達を助けることができますか？

　ですから、自己実現した惑星は、例え見捨てられたように思えても、実存の諸世界のなかにとどまり、引き続き同調を通じて他の惑星に助けを与えます；それは人々の痛みを背負うことはできないことを意味します。彼等の役割は人々を導いて、彼等に問いを生み出させることです…死という現象の向こう側にさらに何かがあるということを。彼等は実存の世界に留まる自己実現した人間であり、マインドの波動としてスーパーサブスタンスを用います。**彼等は現在のパーソナリティーではありませんが、しかし自己実現した人間です。そしてすべての“モナドセルフ”としての人間は他の全ての自己実現した人間と同一です。**

Ｑ：それでは人間と現在のパーソナリティーとの違いは何ですか？

Ｋ：それは実存の諸世界のなかでの実在のフォームです。**そして高次ノエティカル体を使ったコミュニケーションの手段として同調を使います。それはつまり彼等はもはやサイコノエティカル体を持たないということです。なぜなら、彼等の惑星においてもはや現在のパーソナリティーとしては転生しないからです。**

Ｑ：それはこの時点では私たちは単なる現在のパーソナリティーであり、人間ではないということですか？

Page5

Ｋ：私たちは今、現在のパーソナリティーとしての人間です。なぜなら、私たちは自己実現していない現在のパーソナリティーとしての人間だからです。

　もし私たちがサイコノエティカル体を失ったら、自己実現した人間として留まります。自己実現したパーソナリティーとして転生のサイクルに留まるなら、完全に再形成されたサイコノエティカル体を持って、二元性を使い、感覚を使い、同時に他の同胞の人間達の痛みを背負って、彼等の痛みを軽減します。しかし、もしそうならなければ、つまり痛みを背負ったり、二元性を使用しなければ、その時には私たちはもはや現在のパーソナリティーではありません。なぜなら、私たちはもはや肉体そしてサイコノエティカル体を使用しません；**サイコノエティカル体は現在のパーソナリティーを意味します。**もしサイコノエティカル体を持たなければ、自己実現した人間ですが、もはや現在のパーソナリティーではありません。私たちはまだLifeそれ自体ではありません、なぜなら同化を使わないからです。

　ですから、私たちは現在のパーソナリティーとしての人間であり、いつか自己実現した人間になるのです。**そして自己実現した現在のパーソナリティーであることを止めると、自己実現した人間となります。**

Q：記憶はどうなるのですか？高次の波動のなかではそれは停止するのですか？

K：**私たちが理解している記憶は、時間・空間の意味内における動きであり、人間である現在のパーソナリティーによって翻訳された二元性の結果です。そのステートでは記憶は存在せず、全ては永遠の現在の中にあり、動きはありません。**

Q：永遠のアトムはどこから来るのですか？

K：それはLifeそれ自体から来ます。自己実現した人間は存在の諸世界には入りません；それは永遠のパーソナリティーであり、生それ自体のスパークです。レッスンの中で述べましたが、スパークは“魂それ自体”であるといいました。“魂それ自体”と言う場合、それは魂の全体ということではなく、魂からの微細なスパークですが、それは魂*です*。魂のセルフエピグノシスは“スピリットモナドセルフ”からの微細なスパークですと言う時も、同じです。それは実際にスピリットであり、まったく違いはありません。本質は同じです。

　しばしば、最小のものも同時に最大である、と述べました。そして私たちの内側にあるスパークさえも神それ自体*です*；違いはまったくありません。しかし自己実現した人間は神ではありませんが、神は内側にいます。

　**そしてもし自己実現した惑星の役割が終わったなら、その惑星上の全ての自己実現した存在たちはスパークと一つになります。そうなるということは、私たちがラインを超えて、そのスパークが魂に自己実現を与え、スピリットの方へ動くと言うことです。**その動きについては私たちは何も知りません；それに関して、私たちにはそこに何があるかについての実際的な経験はありません。実際、同調を通じてでさえも同化とは何かについて把握するのは不可能です。

　魂が自己実現に到達すると、もはやそれ以上の進化はありません。その場合、なぜ4つのヘブンがあるのかと質問したら良いでしょうか、私たちにはわかりません。実際、私たちにはわからないと言う時は、そこにあるリアリティーについて理解する唯一のことは、それらの諸世界はそれ以上の何かを現すためのものではなく、その役割とは下降のためのものであり、上昇ではないということです。なぜなら、私たちが述べたように、それらの諸世界は、元型、イデアフォーム、そして全ての法則の諸世界だからです。しかし、自己実現の後に魂が行う役割については、私たちはわかりません。個人的にはそこに何らかの役割があるとは思いません。

　私たちは意味のあるリアリティーにアプローチしますが；しかしそこには意味も存在せず、時間もありません；ですから、自己実現した魂がそのラインを超えてそれらの諸世界に入り、スピリットに戻る際には1秒の何分の一もかからないかもしれません。同じように、現在のパーソナリティーを活性化するためにそれ自体から微細な部分をスパークさせる際にも時間というものはまったくありません；時間はまったくかからず、即時に生じます。

Page 6

 Q : 人々が神がいるかどうか、または死後の世界、あるいは過去に自分がどのようなパーソナリティーであったかどうか等を質問する時、彼等は自分が現在のパーソナリティーとして存在している今のこの波動のなかで自分を考えます；なぜなら基本的に彼等は過去を知らず、今の名前のあるパーソナリティーとしての自分以外の自分を心に描くことができないからです。実在の諸世界を超えた向こう側についての考えにはほとんどの人々は直接的関心を向けません。

Ｋ：なぜなら、レッスンで述べたように人間は自分の理解に従ってヘブンを考えているからです。すべての宗教がそのようにしており、キリスト教でさえそうしています。彼等は福音書のヨハネが7つのヘブンについて、さらには7つの教会、7つのキャンドル、そして7つの星について述べている時、彼が何について語っているのか認識していません。

　それが現実です；人間は自分の理解に合わせてヘブン、天国を低めています。幸いなことにここキプロス、そしてアトス山(＊ギリシャ北東部）には司教や修道士がおり、彼等は転生、エクソマトシスの現象、そして原因結果の法則などに関してより深い大きな認識を抱いています。

　アトス山における有名な修道士のポルフィリオスは、多くの苦しんでいる人々を助けた人として聖者として認められている人の一人です。そして彼はエクソマトシス（＊意識的幽体離脱）の能力があると信じられています。

Ｑ：いわゆる臨死体験において人々はトンネルを通り、天使その他を見たと述べていますが、あなたの意見はどうですか？

Ｋ：それらの体験は問いをもたらします。体外離脱のようなもので、混乱をさけるために人々は皆同じような体験をしています。それはそのパーソナリティーが“死ぬ”という死の現象に伴う体験ではありません。

Ｑ：私たちは下の3つのヘブンを体験します。なぜなら、実際にわかるからです。しかし、それより上の4つのヘブンについて私たちはどのようにしてそれがあると確信できますか？

Ｋ：4つのヘブンについて私たちが“知る”のは、私たちの内なるセルフ、魂のセルフエピグノシスと共に同調を通じてアプローチすることができます。魂と言うとき、それは私たちの内側にあるスパークです。自己実現した人間が内側にあるスパークからの同調を通じて、それらのLifeそれ自体、そしてさらにアウタルキーにおける絶対存在について、そこから放射されているものをどれだけ把握できるか。あなたはLifeそれ自体からそれに同調することができます；それは個人的な体験というようなものではありません。ですから、勿論、人によって細かいことは異なるかもしれませんが、しかし一般的な構造というものは同じであるはずです。

　ですから、これが生じていることです。そうです、まばたきするように一瞬の体験、また心を開いた人などいるかもしれません。しかし私たちは何であれ他の人々が私たちに述べることに注意を向けるべきではありません。彼等が何を信じるかは自由です。私たちが信じていることをより多くの人々がますます信じるようになってきており、その数は絶えず増えつつあります。

EREVNA PYR 47 KE6 NO.10.050106